

事例 株式会社ライズ（富山県魚津市）

- 事業内容：自動省力設備及びファクトリーオートメーション設備の設計・製作
- 設立：2006年 資本金：4,800万円 従業員60名

ライズは自動化・省力化設備の設計から組立、アフターフォローまでの一貫対応を強みとするものづくり企業

SBTの取得によるCN推進

CN取組の内容

● SBT*認証の取得

2021年9月にSBT (1.5度水準)の認定を取得し、2030年までにScope1,Scope2のGHG排出量を46%削減（2019年を基準年）、Scope3の排出量測定及び削減についてコミットメント。

これまで2013年から太陽光発電（現在727kW）を行い、2021年には再エネ由来電力へ切替を実施するなどScope1,2における取組を先んじて実施。2022年度実績（2019年比）はScope1, 2で25%減を達成。



太陽光発電設備（同社工場屋根）

ここがポイント

CN推進の原動力は経営層の高い意識

東日本大震災を契機に固定価格買取制度を活用した太陽光発電設備の導入など経営層のエネルギー問題の関心・知見を高め、SBTについても経営層が主体的に情報を集め、認証取得することを意思決定。

経営手法が顧客である自動車大手等のニーズを的確に捉えた技術提案を強みとしており、CNに貢献する取組がいずれ社会や顧客から求められるのであれば先行して取り組むことが将来的なビジネスチャンスにつながると予見。短期的には割高な再生可能エネルギー由来電力の使用など収益面のメリットには結び付きにくいですが、長期的な社会・顧客からの評価につながることを重視し、経営層が主導してCNの重要性を発信し、社員の意識も高めていった。

※SBT・・・Science Based Targetsの頭文字を取った言葉。パリ協定達成のために企業が設定する温室効果ガス削減目標。

出典：企業HP、ヒアリング内容をもとに電力・ガス事業北陸支局作成